

### どう取り組む？

## 認知症などの徘徊対策

(西条市民クラブ)

**問** 認知症などによる徘徊は自分の身の回りに起こり

得るものであり、先般も徘徊による行方不明者の捜索が行われたが、本市の徘徊による捜索件数について問う。

また、現在実施している徘徊高齢者位置検索サービス事業の利用状況と市民への周知は、どのように行っているのか。

## 答

本市では、消防団などによる行方不明者の捜索が、平成16年から平成25年10月末日までに46件あり、このうち65歳以上が37件となっている。

徘徊高齢者位置検索サービス事業については、在宅のおおむね65歳以上の認知症高齢者の家族に移動端末機器を貸与し、GPSと携帯電話の基地局を利用して位置検索を行い、徘徊高齢者の早期発見と安全確保を目的に実施している。

移動端末機器の平均利用者数と位置検索回数は、平成23年度は7人の30件、平成24年度は5・

8人の16件、平成25年度は10月末日で7・3人の20件で、全ての事例で無事保護されている。

また、必要と思われるかたにケアマネージャーから積極的に勧めてもらおうほか、ホームページなどに掲載して周知を図っている。

市では、健康教育を通じて認知症に対する正しい知識を啓発するとともに、これまでの取組の拡充に加え、認知症予防教室の開催や健康づくり推進員などとの連携、いきいき百歳体操教室に認知症予防のメニューを加えるなど、認知症になっても地域で暮らし続けられるよう、きめ細やかな認知症施策の推進に努めていきたい。

## 管理体制の確立を！

### 市の業務上の危機管理

(公明党西条市議団)

## 問

椿交流館で大量の入浴回数券が紛失した問題について、再発防止への取組について問う。

また、他の施設利用券などの管理対策や取扱マニュアルの策定とそれを生かす体制の確立が必要であると思うがどうか。



椿交流館

## 答

椿交流館では、再発防止のため、回数券の払い出しマニュアルを改め、1日3回複数の職員で在庫確認を行っている。

更に、平成25年12月からは、館長が常駐し、職員への指導監督を行うとともに、定期的に椿交流館の全職員を対象とした職員研修などを実施している。

また、現在、市にはスポーツ施設の利用回数券や入浴回数券、施設入場券など、さまざまなものがあり、統一したマニュアルの作成が困難であることから、各部署において最善の管理マニ

ュアルを作成し、適正な管理に努めている。更に、毎年5月には各部署の関係書類の確認を行っており、今後も各施設に赴き、管理状況などの現場確認を実施するなど、更なる適正管理の徹底に努めるとともに、全庁的な統一を図るため、関係職員を対象に勉強会や検討会を設けたいと考えている。

## 導入の考えは？

### 雑誌スポンサー制度

(公明党西条市議団)

## 問

雑誌スポンサー制度は、企業、団体などが図書館に所蔵されている雑誌の購入代金を負担し、その見返りとしてスポンサー名の掲示や広告の掲載を行うものである。制度導入により、図書館の経費削減が図られると考えるが、本市における制度導入への見解を問う。

## 答

現在、市内図書館に配置している雑誌は、最新の情報掲載物として、また、短期間の閲覧用資料として取り扱っており、市民生活に密着する最新の情報源として、趣味や生活に関するものから政治経済に関

するものまで幅広く配置している。

雑誌は、それぞれの内容により発行形態が異なっているが、現在、市内図書館では月刊誌182誌、週刊誌20誌、季刊誌その他51誌、合計253誌を配置しており、購入費は約300万円となっている。同制度は、県内において導入している市もあり、本市の財政面、企業のPRにもなるというメリットがあることを考えると、今後、本市においても同制度の活用について環境整備などを含めて、他市の状況も勘案しながら検討していきたい。



西条図書館雑誌コーナー